

## 東後 琢三郎（とうご たくさぶろう）

明治29年（1896年）兵庫県加古郡富谷村に生まれる。県立小野中学校卒業後、大正5年加西郡役所に勤む。大正9年10月、都市計画法施行の年に都市計画地方委員会書記兼兵庫県属として都市計画神戸地方委員会（10年官制改正により都市計画兵庫地方委員会）に勤務する。

昭和3年7月都市計画地方委員会事務官となり、都市計画福岡地方委員会に転勤し、6年10月地方事務官を兼務して福岡県内務部都市計画課長となる。8年10月土木部新設に伴い土木部都市計画課長兼経理課長となる。

昭和12年1月辞して、大阪市土木部大阪駅前整理事務所長、15年土木部整地課長となる。21年1月大阪市復興局土木部整地課長、同年12月整地部次長兼換地課長となる。22年7月退職し、24年まで嘱託として勤務した。

退職後は、大阪府、兵庫県、和歌山県の都市計画地方審議会委員及び6市の都市計画審議会委員を始め、4府県にわたり10市及び日本住宅公団の約20の土地区画整理審議会委員又は会長の外、各種の委員会委員等を務めた。また磯村英一氏の主宰する近畿都市学会理事であった。昭和46年9月、74才で病没するまで、関西における都市計画及び土地区画整理事業の主の様な存在であった。

竹重貞蔵

（翁福岡土地区画整理協会相談役）

氏は遠大な理想主義者で、かつ理論家であり、議論をすることが多かった。筆者は福岡県時代6年間師事したが、その卓抜な意見には常に敬服させられた。中学卒の特進の事務官課長であるが、高文出（現在の国家公務員採用一級試験）の部課長に伍して、一歩も遙色ない識見と貫録を持していた。



当時の都市計画界は、都市計画事業というものはほとんどなく、都市計画の仕事は図面に色を塗り大言壯語するだけで、「都市計画は描いた餅に過ぎない」と悪口を言われていた。都市計画を実現する唯一の途は、土地区画整理組合事業に依る外にないと先見して、国の補助などは全くない時代であったので、福岡県下の主な7都市に県職員を1人宛駐在せしめて、組合事業の助成に努めた。その結果、昭和12年までに40余の組合が設立された。

都市計画に関する構想は遠大で先見性があり、6年当時すでに関門海底隧道の調査を行っている。また博多駅は後退すべきであるとして、駅裏の区画整理の施行に当たり、私に駅の後退案を作成させたが、20年後の新幹線の建設により、この案が実現をみている。